

令和7年度東御市社会教育委員会 臨時会 次第

日時:令和8年1月 21 日(水)午後7時 00 分から

場所:東御市中央公民館 学習室5

1 開会

2 議長あいさつ

3 会議事項

・社会教育関係団体への補助金について

・今後の活動について(グループごと協議)

①子どもたちの育ちと地域の関わり

【富岡委員・柳澤委員・岡田委員】 事務局:中澤係長

②地域活動を続けるしくみと新しい仲間づくり

【塩川委員・戸堀委員・大村委員】 事務局:原澤館長

③学校・地域の連携と社会教育の新しい役割

【後藤議長・関委員・小林委員】 事務局:中村

4 その他

・次回定例会、臨時会の開催時期について

5 閉会

東御市社会教育委員名簿

(任期 令和6年7月1日～令和10年6月30日)

氏 名	備 考
富岡 茂樹	和地区
大村 裕子	滋野地区
柳澤 秀樹	田中地区
戸堀 恵二	祢津地区
塩川 壽友	祢津地区
関 桂子	和地区
岡田 佳澄	北御牧地区
後藤 富美男	滋野地区
小林 俊一	祢津地区
盛野 憲俊	東部中学校長

(事務局)

中村 昌彦	企画振興部長
柳橋 智	地域づくり支援課長
中澤 公哉	地域コミュニティ推進係長
西牧 さくら	地域コミュニティ推進係
原澤 利明	東御市公民館長

令和8年度 社会教育関係団体補助事業集計表

番号	補助金の交付先	R8 予算額 (千円)	目的・内容・【算定基準】
1	東御市雷電太鼓保存会	300	東御市雷電太鼓保存会の運営に対する補助金
2	信州御牧太鼓保存会	300	信州御牧太鼓保存会の運営等に対する補助金
3	短詩型文学祭実行委員会	170	短詩型文学の振興を図ると共に、愛好者の作品発表の機会を提供する短詩型文学祭の開催に対する補助金
4	各地区子ども会育成連絡協議会	660	地域の青少年健全育成活動を推進するため、各地区の育成会活動に対する補助【1地区132千円を上限に5地区分】
5	友遊クラブ(柵津、和、北御牧)	300	地域における児童の学校外活動の場や機会を充実させるため、地域社会の指導のもと、文化・スポーツ等の各種活動に対する補助【1クラブ100千円を上限に3地区分】
6	市子ども会育成連絡協議会	180	湯の丸高原等、キャンプなどの野外体験を通して自主性や協調性を学び、子どもらしいたくましさを養う活動の費用に対する補助
7	楽育ひろばtomi	100	市の豊かな自然環境の中で親子でのキャンプ活動や里山活動、外遊などを楽しみ、様々な野外体験活動を通して子どもの健全な育成を推進するための補助
			以下余白

社会教育法 第13条:

国又は地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合にはあらかじめ教育委員会が社会教育委員の会議で意見を聴いて行わなければならない。

社会教育委員アンケートとりまとめ

【1】子どもたちの育ちと地域の関わり	
〈主な課題・意見〉	〈今後の研究課題案〉
<ul style="list-style-type: none"> ・少子化に伴う育成活動の工夫と、持続可能な育成会組織の継承が課題。PTAとの連携も検討を。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 持続可能な育成組織の運営や、PTA・地域との連携のあり方を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがこんな風に働きたい!と思えるように、様々な仕事に出会うきっかけづくりとして、企業体験など、子どもが「働くこと」に触れられる体験機会を増やせたら良いと思う。(キッズニア的な取組)。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 子どもが「働くこと」への関心を高め、将来の夢や地域への愛着を育むため、地域企業や高校生・大学生等と連携した「仕事体験」「地域版キッズニア」のような実践的体験機会のあり方を研究する。
<ul style="list-style-type: none"> ・里山探検・げんき塾・ゆるスポなどの活動を通じ、幼少期～中学校の子どもの成長を支援している中で、子どもたちの体力低下・体験格差・人間関係の希薄化・自由な遊び場の減少など、多面的な課題が見えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 子どもたちの放課後や休日の過ごし方、保護者の働き方などの実態を明らかにし、地域社会として「何ができるか」「何が必要か」を検討する。具体的には、子どもの居場所・体験機会の創出、地域資源を活用した活動の安全確保、部活動地域移行への具体的な連携・支援体制について調査・研究を進める。
<ul style="list-style-type: none"> ・就学で県外に出た若者達の地元定住を促す環境づくりを支援したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 就学や就職で県外に出た若者が、将来的に地元へ戻り、定住・活躍できる環境づくりを研究課題とする。
【2】地域活動を続けるしくみと新しい仲間づくり	
〈主な課題・意見〉	〈今後の研究課題案〉
<ul style="list-style-type: none"> ・公民館活動(地区含む)の参加者の高齢化が進んでいる。講座・イベント内容の工夫が必要。また、若い世代の参加を促すため、内容・運営方法を見直すことが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 多世代が参加・協働できる公民館活動の講座やイベント内容、運営方法の見直しについて考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・市内スポーツ教室(例:ゴルフ教室)において、参加者減少・運営費減少により活動維持が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域スポーツ活動の持続的運営のための課題と方策を検討する。
<p>「何かできるかも」「何かしよう」と考えている人たちを支援することが大切である。地域には多様な分野で活躍できる多才な人材がおり、そうした人たちが講師として活動し、地域住民に知識や技能を伝える機会を増やすことが望まれる。そのために、社会教育委員が地域の人材を掘り起こし、講師や担い手として活用できる仕組みづくりが必要である。</p> <p>また、住民が「聞きたい話」「教えてほしいこと」を気軽に相談できるよう、コーディネーター的な役割を担う取組も求められる。例えば、「滋野の歴史を知りたい」と思ったときに、誰に聞けばよいか分からないことがあった。そうしたとき、人と人をつなぎ、学びの機会を生み出せるような仕組みがあるとよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域内の多才な人材を発掘し、学びの担い手として生かせるような仕組みを研究する。公民館が「人と人をつなぐコーディネーター」として機能する体制づくりを検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の役員等のなりて不足について 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域の役員等のなりて不足について、現状調査を行う。
【3】学校・地域の連携と社会教育の新しい役割	
〈主な課題・意見〉	〈今後の研究課題案〉
<ul style="list-style-type: none"> ・市の教育委員会、教育課、学校関係者との懇談など、子どもを取り巻く現状を共有する機会を設けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 市の教育委員会、教育課、学校関係者との懇談をし、子どもを取り巻く現状を共有する機会を設けて課題を見つけ出す。
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の部活動地域移行において、特に文化系活動の受け皿づくりが課題。地域の社会教育指導の力も必要ではないだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 市の生涯学習講座や公民館活動などで活躍している講師・指導者を、中学校の文化系部活動につなぐ仕組みづくりを検討してはどうか。
その他の意見等	
<ul style="list-style-type: none"> ・市の財政状況を踏まえ、費用のかからない実現可能な取組を重視すべき。 ・生涯学習の観点から、社会教育の立ち位置を改めて整理する必要がある。 	

【メモ】

今後の活動について

- ①子どもたちの育ちと地域の関わり
- ②地域活動続けるしくみと新しい仲間づくり
- ③学校・地域の連携と社会教育の新しい役割

1 今後の活動方針

--

2 活動内容

--

3 役割分担

--

4 スケジュール確認

--

5 決定事項

--

6 検討事項

--

7 その他

--